

# 安芸高田市産業振興ビジョン

～人と企業のチャレンジ応援！ 安芸高田市～

平成17年3月

安芸高田市産業振興協議会

## はじめに

### （地域の夢の発信）

安芸高田市は、平成16年3月に高田郡6町が合併して誕生しました。この地は、戦国の武将毛利元就が新たな時代を切り開いた出発地です。私たちは、現代において、新たな地域づくり・産業振興の夢をここから発信したいと思っています。

### （田園環境での産業発展）

21世紀は知識社会だと言われています。知識は人の中にあり、距離の制約を越えていきます。それは量ではなく質が問われるものでもあります。私たちは、そのような時代は、都市近郊に立地しながらも良好な自然環境を守る私たち安芸高田市にとって大きなチャンスだと考えます。

### （模倣でない自立的な取り組み）

時代はキャッチアップの時代からフロントランナーの時代へと移っており、それは地域づくり、産業振興においても同様です。単なる模倣ではなく、自分たちの地域を自分たち自身で見つめ直し、新たな可能性を発見し育てていきたいと考えました。

### （地域での議論の積み重ね）

この産業振興ビジョンは、安芸高田市と市内の6商工会が共同で協議の場を作り、議論を積み重ねてまとめたものです。行政と商工会関係者等で構成する「安芸高田市産業振興協議会」と「安芸高田市産業振興ビジョン策定委員会」、「安芸高田市産業振興機構設立検討委員会」での議論を元に取りまとめました。行政と民間が自由な立場で議論をしたところに、このビジョンの特色があると思います。

検討に当たっては、広島大学地域連携センターを窓口として、多様な研究者の先生方の協力を得ました。それぞれの専門家の視点から貴重なご助言をいただくことにより、議論が深まったと思います。ここに深く感謝いたします。

### （地域の力の結集）

産業振興方策に正しい一つの答えというものはなく、私たちの具体的な行動こそが、このビジョンを現実の成果に結び付けていくかどうかを決めるのだと思います。今後、このビジョンを元に、その実現のために行政と経済団体など地域の力を結集して、具体的な行動へと取り組んでいきたいと考えています。

毛利元就の3本の矢の教えは、守りではなく結束して新たな挑戦に立ち向かう教えであると思います。私たちは、広域合併を契機として、新たな魅力ある産業づくり・地域づくりのために新たなチャレンジを始めます。

平成17年3月

安芸高田市産業振興協議会  
会長 富永 秀雄（甲田町商工会長）

# 目 次

はじめに	1
安芸高田市の産業発展のイメージ	3
<b>第1部 現状と可能性</b>	
1. 地域の概況	5
2. 地域経済の検討	8
3. 産業の現状と課題についての地域の声	12
4. 最近の地域産業振興対策の論点	14
5. 安芸高田市新市建設計画	17
6. 地域の主な資源	20
7. 今後の産業振興の留意点	22
<b>第2部 産業振興ビジョン</b>	24
理念「人と企業の可能性を引き出す産業振興」、ビジョン、戦略、実施体制	
<b>第3部 産業振興対策</b>	
・人がつながり人が育つ	26
（戦略1）交流による新たな可能性の開拓	
（戦略2）人材育成機会の継続的提供	
・新たな挑戦を支援する産業支援環境の整備	28
（戦略3）新たな挑戦を理解し応援する環境づくり	
（戦略4）産業活動を支えるインフラ整備	
・広域性と地域特性を生かした産業振興の推進	30
（戦略5）広域的対応による新たな可能性の開拓	
（戦略6）田園環境を生かした健康・環境・教育関連産業の振興	
（戦略7）交流人口、ネットワーク人口の拡大	
<b>第4部 産業振興推進体制</b>	
1. 商工会の広域化	34
2. 産業活動支援センターの設立	36
参考資料1 安芸高田市産業振興ビジョン検討状況	41
参考資料2 地域の主な企業・教育関連施設の例	46
参考資料3 地域の主な産業資源	50
参考資料4 安芸高田ビジネス塾	53
参考資料5 産業振興組織の先行例	54
参考資料6 安芸高田市における産業振興のための基礎的検討(広島大学伊藤教授)	58
参考資料7 産業振興と企業活動支援(広島大学久保教授)	69
参考資料8 中山間地域における情報メディアの活用とネットワークの構築(広島大学匹田助教授)	74
参考資料9 安芸高田市の地域力(広島大学岸田教授)	80
参考資料10 地域産業開発事業の進め方に関して	84
参考資料11 湧永庭園と地域の景観づくり	90
委員名簿	95
協議状況	97

## 安芸高田市の産業発展のイメージ

広島市の北40kmに位置する安芸高田市は、毛利元就に代表される古い歴史文化と豊かな自然に恵まれた地域である。高速道路や鉄道も整備され、地理的にも重要な位置を占めている。

そこには今、いくつもの工業団地があり多様な企業が立地しており、その中には世界的に活躍している企業の研究開発拠点もある。このような研究開発拠点が長年にわたってこの地域において発展をつづけていることは、この地域の可能性の高さの現れである。

21世紀は、個人の豊かな人間性に裏付けられた、多様性と変革を許容する優しい社会をめざす世紀である。そこでは、人が輝く、個人の可能性を伸ばせる豊かな生き方が問われている。

都市近郊にあって、自然、歴史文化、交通インフラ、一定の産業集積に恵まれている安芸高田地域は、これからの社会における新たな地域づくりのモデルとなりうる要素を備えている。

がむしゃらに働くだけでなく、個人の個性と生活を大切に、継続的に学び発展しながら、豊かな自然の中で感性を大切にしたい質の高い仕事をしていくことの価値を、全国に示すことのできる可能性を抱えている。

そして、この地域を訪れる人々には、豊かな自然と歴史文化の中で、新たな挑戦と創造が生み出されることを感じさせる。

このような可能性を現実のものとするために、この地域では、他の地域以上に行政と産業界との連携が進んでいる。それはもちろん馴れ合いではなく、自分たちの地域づくりをめざす者同士の協働作業である。

限られた地域資源を最大限に効率的に生かして、地域が一体となって産業発展のために取り組んでいく。上意下達や縦割りではなく、地域の現場からスタートした地域の実情に合った取り組みである。

安芸高田地域は、広域合併のメリットを最大限に生かして、人を基本に、個人の生活と感性を大切にしながら、研究開発や企業の新たな挑戦を支援し、環境・健康・継続教育に重点的に取り組み発展していく。

この地域を訪れる人々を、豊かな自然や歴史文化のみならず人々のホスピタリティで魅了する。

(安芸高田市マップ)



# 第1部 現状と可能性

## 1. 地域の概況

### (1) 安芸高田市の主要指標

人口（国勢調査）

吉田町，八千代町で人口が増加しているものの，地域全体での対全県比は若干低下している。

区分	1990年 (人)	2000年 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)	2000年 世帯数	1世帯当 たり(人)
吉田町	11,527	11,632	+105	0.9	4,092	2.8
八千代町	4,288	4,450	+162	3.8	1,417	3.1
美土里町	3,811	3,423	-388	-10.2	1,143	3.0
高宮町	4,825	4,408	-417	-8.6	1,585	2.8
甲田町	6,361	5,793	-568	-8.9	2,021	2.9
向原町	5,303	4,733	-570	-10.7	1,694	2.8
市計 (対全県%)	36,115 (1.3)	34,439 (1.2)	-1,676	-4.6	11,952 (1.1)	2.9
県全体	2,849,847	2,878,915	29,068	1.0	1,099,536	2.6

年齢別人口（国勢調査）

高宮町では65歳以上人口比率が40%を超えている。（全県では豊町の48.8%が最高で，40%以上が12町村ある）

区分	年	人口総 計(人)	0～14 歳(人)	15～19 歳(人)	20～59 歳(人)	60～64 歳(人)	65歳 以上 (人)	65歳以 上比率 (%)
吉田町	1990	11,527	2,015	720	5,677	836	2,279	19.8%
	2000	11,632	1,727	580	5,861	679	2,785	23.9%
八千代町	1990	4,288	731	334	2,053	275	895	20.9%
	2000	4,450	493	237	2,010	271	1,439	32.3%
美土里町	1990	3,811	612	133	1,625	411	1,030	27.0%
	2000	3,423	421	117	1,317	232	1,336	39.0%
高宮町	1990	4,825	662	188	1,965	529	1,481	30.7%
	2000	4,408	573	139	1,597	315	1,784	40.5%
甲田町	1990	6,361	1,104	376	2,961	537	1,383	21.7%
	2000	5,793	774	277	2,630	373	1,739	30.0%
向原町	1990	5,303	753	393	2,395	427	1,335	25.2%
	2000	4,733	509	249	2,109	354	1,512	31.9%
市計	1990	36,115	5,877	2,144	16,676	3,015	8,403	23.3%
	2000	34,439	4,497	1,599	15,524	2,224	10,595	30.8%
	増減率(%)	4.6	23.5	25.4	6.9	26.2	26.1	

## (2) 地勢

当市は、広島県の中北部に位置し、北は三次市、島根県、南は広島市、賀茂郡福富町、東は三次市、賀茂郡豊栄町、西は山県郡千代田町、大朝町に接しており、538.17 k m<sup>2</sup>の面積を有する。

市域内は急峻な山岳はないものの、鷹の巣山、大土山、犬伏山等の大小さまざまな山に囲まれており、市域面積の8割を森林が占め、小起伏の丘陵と小盆地が帯状に形成されている。

河川は、これらを縫って市の中央部を江の川が貫流し、北部は生田川、本村川が東流して江の川に注ぎ、南部は三篠側が西流して太田川に合流しており、こうした地形は、水と山々や田園の緑とが調和したこまやかで落ち着きのある景観を形成している。

## (3) 交通

当市は、中国縦貫自動車道が市内を横断し、一般国道54号線、433号線に加え、主要地方道広島三次線、吉田瑞穂線等の幹線道路が走っている。鉄道もJR芸備線、JR三江線が市内と通り、JR芸備線は3駅、JR三江線は4駅が設置されている。

このことから、交通利便性は比較的良好であると言えるが、今後は地域高規格道路東広島高田道路の整備によって、東広島市方面や広島空港とのより一層のアクセス強化が期待される。



#### (4) 製造品出荷額，商品販売額

製造品出荷額の対全県比は1.7%と人口比と比べると若干多いが，商品販売額の対全県比はかなり低くなっている。

	製造業事業所数 (所)	製造品出荷額等 (百万円)	出荷額上位業種			商店数	年間商品販売額 (百万円)
			1位	2位	3位		
吉田町	45	40,757	金属製品	ゴム製品	食料品	156	16,178
八千代町	25	11,873	輸送用機械	金属製品	家具	52	3,076
美土里町	6	3,246	プラスチック製品	輸送用機械	その他	46	2,492
高宮町	11	7,118	化学	金属製品	輸送用機械	50	2,042
甲田町	26	14,888	一般機械	化学	金属製品	91	10,156
向原町	20	34,048	輸送用機械	金属製品	石油製品	76	3,869
市計 (対全県%)	133 (1.9)	111,931 (1.7)				471 (1.2)	37,813 (2.9)
県全体	7,065	6,556,297				40,708	1,301,885

(注) 製造業事業所数は，従業員4人以上のもの。

出所：製造業 「平成14年工業統計表」平成14年12月31日現在  
卸売業・小売業 「平成14年商業統計調査結果報告」

#### (5) 商工会の会員，職員数

商工会は，小規模の職員数で，経営改善普及事業や地域総合振興事業などに対応している。

今後は，行政の広域合併による安芸高田市の成立に対応して，地域密着型の特性を活かしつつも，新たな行政区域に対応した広域的な対応体制の整備とともに，地域の産業振興全体に対して積極的に提案し行動していくことが期待されている。

(単位：所，百万円)

	商工業者数	小規模事業所数	職員数			年間予算額 (H14年度支出額)
			経営指導員	その他	計	
吉田町	515	408	2	3	5	52
八千代町	215	177	1	2	3	25
美土里町	127	114	1	2	3	24
高宮町	169	159	1	3	4	29
甲田町	279	241	1	3	4	35
向原町	209	180	1	3	4	38
市計	1,514	1,279	7	16	23	203

## 2. 地域経済の検討

### (1) 産業の自立性の検討

#### 産業関連機能の集積状況

安芸高田市の産業関連機能の集積をみると、次のような特徴が指摘される。

第1に、農林水産、鉱産、建設、製造という物財生産機能の値が全般に高い。これらがいわば稼得機会を支えてきたことが推察される。

第2に、小売機能、生活関連サービス機能、自動車関連サービス機能などについては、人口におおむね比例して分布している。そのなかでは地方公務、地域サービス機能、保健・医療・福祉サービス機能、基礎的教育サービス機能などの集積係数は全般に高く、周辺地域をカバーしていると推察される。

第3に、高次都市機能と準高次都市機能については集積係数が全般に高くない。とはいうものの、すべてを自前でそろえる必要はなく、むしろ隣接する広島市と適切な連携・補完を図っていくことが戦略的といえる。

第4に、産業全体の集積係数は相対的には上昇しており、依然として流出型ではあるものの、わずかながら歯止めがかかった状況にあるといえよう。

#### 中心地性

安芸高田市において産業全体の自立性が相対的に向上していることは、別の側面からもうかがうことができる。常住の従業者数が減少する中で、他市町村への通勤者が増加しているものの、他市町村からの通勤者も大きく増加している。特に広島市に対しては、これまで流出超であったのが流入超に変化している。これは他市町村との間で通勤者の流動が高まりながらも、流出・流入がほぼ均衡しうるだけの雇用力が備わってきたことを示唆している。

#### 産業の影響範囲

事業所の構成を本所・支所別等にみると、安芸高田市では単独事業所の割合が高く、本所の構成比が低いことが分かる。単独事業所が全体の約8.2%を占めることは、それだけ地場型事業所が多いということである。1991～2001年にかけて製造業と建設業の従業者数は合計で2,000人あまり減少した半面、商業とサービス業の従業者数は700人以上増加している。

主要産業の事業者数と従業者数

(事業所、人、%)

		2001年	1991年からの変化		広島県の増減率
			増減数	増減率	
事業所数	産業計	1,731	207	10.7	6.9
	卸・小売・飲食	611	122	16.6	13.9
	サービス業	503	7	1.4	4.3
	製造業	226	94	29.4	23.0
	建設業	224	2	0.9	3.0
従業者数	産業計	14,330	1,302	8.3	2.9
	卸・小売・飲食	3,093	257	9.1	0.4
	サービス業	4,274	455	11.9	16.8
	製造業	4,116	1,892	31.5	22.9
	建設業	1,493	175	10.5	5.8

(注) 総務省「事業所・企業統計」から作成(公務を除く)。

## (2) 人口構成の変化

### 人口動態

1980年度からの人口動態についてみると、80年代前半まで自然増を維持していたが、その後は自然減に移行し、最近では年間200人程度のマイナスとなっている。他方、社会増減については、サッカーのJリーグが発足したころに一時的な社会増がみられたものの、この20年あまり一貫して100人近い流出が続いている。

### 将来人口

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、安芸高田市の人口は2015年に29,558人、2030年には2000年から1万人強減少して24,126人になることが見込まれている。

15歳未満の年少人口が減少する一方で65歳以上の高齢人口は高水準を維持するため、高齢人口比率は2000年の30.8%から2030年には41.0%に上昇する見込みである。2030年における高齢人口比率は広島県平均を10ポイントあまり上回るに至る。

### 将来推計人口

	実 数			増減数	
	2000年	2015年	2030年	2000～15年	2015～30年
合 計	34,439	29,558	24,126	-4,881	-5,432
a. 年少人口	4,499	3,221	2,340	-1,278	-881
b. 生産年齢人口	19,343	15,196	11,900	-4,147	-3,296
c. 高齢人口	10,598	11,141	9,888	543	-1,253

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口」2003年12月（2000年は総務省「国勢調査」）

### 就業者の高齢化

就業者の年齢別構成をみてみると、安芸高田市は、20～30歳代の構成比が小さく、代わりに60歳以上のウエイトが大きいことが分かる。平均年齢でみると、産業全体では広島県平均で44.4歳であるのに対し、安芸高田市では50.2歳であり、6歳近くの差がある。特に農林漁業については68.6歳（広島県平均は66.0歳）と高齢化が進展している。

### 農業への影響

安芸高田市の就業者18,684人の内訳は、サービス業4,729人(25.3%)、製造業4,010人(21.5%)、農林漁業3,700人(19.8%)であり、これら3産業で全体のちょうど3分の2を占める。これらに比較すると商業2,578人(13.8%)、建設業1,776人(9.5%)はそれほど多くない。

安芸高田市の農業については、販売農家の構成比が約80%と高いこと（ただし、そのうち専業農家は25%であり、広島県平均と同程度である）、農家1戸あたり経営耕地面積が県平均をかなり上回っていること、が特徴である。今後、農業就業者がさらに高齢化し、就業者数が減少しようとも、このような特性に加え、広島都市圏に隣接していること、源流にあたる集落が多いことといった強みを生かし、より高度で多様な農業を展開していく必要がある。

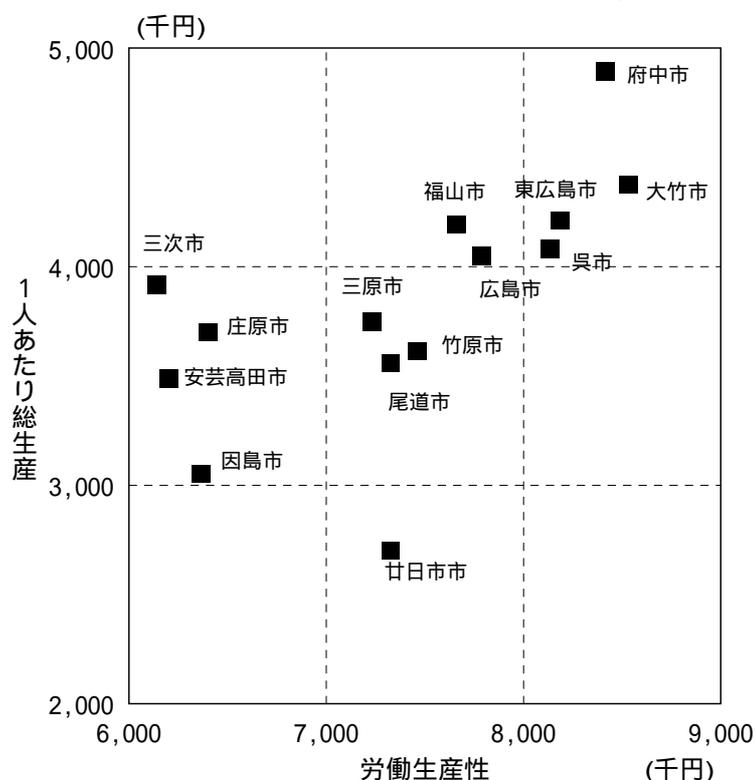
### (3) 地域の発展基盤

#### 人口1人当たり市町村内総生産

2001年度における人口1人当たり市町村内総生産をみると、安芸高田市は約349万円となる。これは広島県平均の382万円を下回るものの、既存73町村（安芸高田市を構成する6町を含む）の312万円を上回る。既存13市のなかでは廿日市市と因島市よりも高位の水準にある。

人口あたり市町村内総生産と労働生産性の関係を見てみると、安芸高田市は、三次市・庄原市とともに、労働生産性が低いわりに人口あたり市町村内総生産が比較的高いことが特徴である。その理由として、牽引力となる産業の存在も考えられるが、今後の産業振興を考える際にさらに検討する必要がある。

図表 13 労働生産性と人口あたり市町村内総生産（2001年度）



#### 就業率と労働生産性の寄与

人口当たり市町村内総生産 ( $Y/P$ ) は、就業率 ( $L/P$ ) と労働生産性 ( $Y/L$ ) とに分解することができる。そこで、就業率と労働生産性を組み合わせてみると、安芸高田市は労働生産性は低いものの、就業率は全般に高く、50%台後半から60%台に達している。安芸高田市における人口あたり市町村内総生産の相対的な高さは、主に就業率が寄与しているということである。

人口が減少しても、就業率の拡大または労働生産性が上昇すれば、人口あたり市町村内総生産を維持または向上させることができる。安芸高田市の場合、就業率はすでにかかなりの高水準にあり、しかも少子・高齢化の進展、人口の減少が見込まれることから、労働生産性の上昇が求められている。

「参考資料6 安芸高田市における産業振興のための基礎的検討」参照。

( S W O T分析 )-----

**強み ( S : strength ):**

- ・広島市に隣接している。
- ・高速道路が市内を横断しインターチェンジを持つ。
- ・交通渋滞が少なく移動に要する時間が正確に読める。
- ・行政と産業界とが議論を交わせる良好な関係にある。(産官連携)
- ・世界レベルの研究開発拠点が立地している。
- ・自然環境を生かした緑のセミナーハウスが立地している。
- ・町同士の対等合併であり新市としての新たな独自色を出しやすい。
- ・毛利元就に代表される歴史と神楽などの文化資源を持つ。
- ・自然に恵まれた田園環境の中で高質な庭園や温泉などの観光資源を持つ。
- ・医療・福祉施設が充実し雇用効果も大きい。
- ・地産地消の農業振興策が健闘している。

**弱み ( W : weakness ):**

- ・都市住民が市内へ転居し安心して通学させる教育環境だと評価されていない。
- ・市内へ定住せず市内事業所へ広島市から通勤者が多い。
- ・広島市から地理的距離に比較して時間距離が長い。
- ・雇用のミスマッチ。企業の求める人材は不足し、若者が求める仕事は少ない。
- ・突発的なものの調達地域内では困難であるなど資材調達に困難がある。
- ・中心市街地の商店が高齢化と後継者不足で空き店舗が増加している。
- ・農林業においても高齢化と後継者不足による農地保全が問題。

**追い風 ( O : opportunity ):**

- ・市となったため、商工業を初めとする産業振興施策の充実が期待される。。
- ・高齢化の進展は福祉の拡充の中では雇用機会の増加にもつながる。
- ・分権化により地域の特色が出しやすくなる。
- ・新市体制において、道路網等のインフラ施設の整備が期待される。
- ・新市全体としては事業者数が一定規模となり、規模の効果が期待される。
- ・国際化の進展により、外国企業の誘致や地域からの国際的展開が考えられる

**逆風 ( T : threat ):**

- ・高齢化の進展による労働人口の減少が見込まれる。
- ・高齢者福祉施策の抑制により、経済的効果の縮小が懸念される。
- ・企業の国際展開による国際競争の激化のため、域内企業流出が懸念される。
- ・行政範囲が広くなりきめ細かな対応の制約が懸念される。。
- ・市町村合併の進展等により県地方機関等の廃止などが懸念される。
- ・道路網整備により購買行動が市外へ流出する恐れがある。。

### 3. 産業の現状と課題についての地域の声

#### (1) 全般

- ・地域内の産業集積が薄い。
- ・「地域」をどこまでの範囲で捉えるのか，広域的な見方も必要。
- ・生活圏の意識の変化も。山口，島根との連携の視点も必要。
- ・広島大学，広島空港の活用の視点も必要。

#### (2) 業種別

##### 商業

- ・空き店舗の増加。
- ・広域合併による旧町役場職員の減少など購買人口の減少。
- ・公共交通機関の減少による買いまわり人口の減少。

##### 工業

- ・企業誘致後のフォローがない。
- ・土地が安かったことはメリットではあったものの一時的なもの。
- ・交通アクセスも20年経っても改善していない。
- ・立地時点での税制面の優遇措置は短期的なもの，新たな優遇措置が必要。
- ・製品開発・市場開拓・技術開発助成がない。

##### サービス業

- ・保健・医療・福祉分野のサービスは相対的に充実。
- ・恵まれた環境を生かした「癒し」に関わるサービス業の発展が必要。

##### 観光業

- ・6町が連携しての，かたくり祭りや花しょうぶ祭りなどをつないだ滞在時間延長のためのルート作りが必要。
- ・健康に関わる観光や産業に関わる観光の開発が必要。
- ・広域化を生かした観光開発が必要。

##### 建設業

- ・地域の特性を知る強みを生かした新たな展開が必要。
- ・公共工事への過度の依存体質転換への支援が必要。

#### (3) 項目別

##### 人材

- ・人はいても意欲や技術面での人材が少なく，やる気のある人を見つけにくい。
- ・不景気でUターンしてくるケースもあるが，求める人材の条件に合わない場合もある。
- ・長男は家もあるし食うに困らないので意欲に欠ける場合もある。
- ・中山間地域の長男社会の良さを引き出せないか。
- ・広島市と比べて人件費はあまり安くない。
- ・広島市へも通勤圏であるため，優秀な人材が広島市に通勤する場合もある。
- ・広島市内からも通勤可能圏であり，地域外からの人材確保も考えられる。
- ・都市部とは教育意識の格差があり，子どもが教育時期になると都市部に移転して父親が通勤してくる。レベルの高い教育を求めて子どもが都市部の学校や塾や学校に通うこともあり，地域の教育レベルの向上が必要。

- ・若手中心に緊張感の維持のための研修研鑽機会の提供が必要。
- 交通インフラ
- ・高速道路には近いものの。通行料金のコストの問題がある。
  - ・物流の集合化・共同化による効率化の要望があるが、民間部門に任せることと、行政、商工会ができることについての検討が必要。
  - ・取引先との人の移動に時間とコストがかかり不利となる。
  - ・高速交通機関（新幹線，空港）とのアクセスの改善が必要。
  - ・西中国地方の物流拠点としての整備の可能性検討が必要。
  - ・広域意識によるＪＲ芸備線活用の検討が必要。
- 通信インフラ
- ・ブロードバンドなど高速通信インフラの整備が不十分。ただし，インフラ整備だけでなく，どのように活用していくかが本質的な問題。
  - ・デジタル画像やＴＶ会議システム等による遠隔地ハンディ克服の工夫も必要。
  - ・遠隔地不利条件を緩和するための情報化による人の移動の代替手法の開発支援。
- 産業振興対策
- ・産業に携わる人々の意識の変革も必要。産業振興人材の育成も必要。問題意識と変化への意識のある人の多いところが，いろいろな取り組みができる。１年で方向を出して，合言葉を持って進めていきたい。
  - ・地域の人が減っている。人がいないのでは，工業団地の企業も撤退していく。行政としても企業が活動しやすいような支援をしていく必要がある。
  - ・６町商工会が連携しての産業支援体制が必要。幸い，安芸高田市内の６商工会は連携が進んでいる。
  - ・吉田町の地域企業データベースは役立っている，創業間もない者からするとデータベースはありがたい，新参者が活動しやすいことは大切。現在吉田商工会が行っている企業のデータベース化を他の商工会も作成し共有化を図っては。
  - ・ひろしま夢ぷらざなどでの，地域の魅力のＰＲが必要。
  - ・地域内の事業者の多くは地域内及び周辺町村を市場としており，その振興を図るためには，地域に人が集まり市場が拡大することを考えることが必要。
  - ・製造業だけでなく，商業の振興も大切。
- 地域づくり
- ・既成勢力構造に対抗して発展した毛利元就のイメージ活用。
  - ・一人っ子時代において，ふるさとと老親に気がかりを持つ地域出身の都市居住者とのネットワークの構築と活用，Ｕターン受け入れ対策。
  - ・高齢社会を活用した高齢者対象の福祉・健康ビジネスの開発が必要。

「参考資料１ 安芸高田市産業ビジョン検討状況」参照。

## 4. 最近の地域産業振興対策の論点

(参考) 経済産業省資料「新産業創造戦略について」(2004年8月)から抜粋

\*\*\*\*\*

地域の課題

- ・過疎化，少子高齢化，公共事業減少

強み・チャンス

- ・地域固有の資源とネットワーク，地域コミュニティ
- ・先端技術研究とものづくりの現場

### (1) 状況認識

各地域に芽生える新事業，クラスターの萌芽

- ・地域経済の疲弊が進み中心市街地等の街の賑わいが失われてしまっている地域もある一方では，地方自治体，大学，NPO等の支援により新しい魅力ある地域的事業の芽吹きもみられる。

「地域ブランド」活動の胎動

- ・地域コミュニティ単位で協働して，地域の技術力や商品力に対するブランド力を磨こうとする動きが活発化。ブランドの存在が，地域に製品への需要，優秀な企業・人材，投資資金を惹き付け，地域力を高める好循環ができつつある例も。

地域社会（コミュニティ）を基盤とした横の信頼ネットワークの形成とこれを利用した協働の広がり

- ・新事業や地域ブランドを育てるために，地域内の横の連携ネットワークを構築し，知恵や人的ネットワークの共有，共同受注，技術と販路の結合，品質や生産方法の規格の統一，街づくりと新事業育成の連動等，具体的な協働（コラボレーション）も行われている。

新産業創造への関与を深める大学

- ・地域再生を図るために大きな力となるのは大学との連携
- ・大学の側でも，産学連携のシステム整備や国立大学の独立行政法人化を契機として，産業界や地方自治体との連携への姿勢が積極化しつつある。

### (2) 成功の秘訣

顔の見える信頼ネットワークの充実

- ・個人間の信頼関係をベースに，常に新しいメンバー・知識・アイデアが流入する「顔の見えるネットワーク」が必要。その際，コーディネーター役となる人材の役割は極めて大きい。

地域の特色ある産業構造や伝統・文化に立脚した総合的な地域戦略を持つこと

地域社会（コミュニティ）を基盤とした協働による新商品・サービスの開拓と地域ブランド作り

### (3) 課題

地域の資源に関する的確な認識

- ・地域の中小企業の技術蓄積，大学教育・研究機能，伝統工芸，地場食材，古い街並み等の価値の適切な認識が不十分

横のネットワークを育てること

- ・多くの地域では，従来の縦割り構造（下請け取引関係等）が色濃く残っており，横のネットワークの育成が必要。

産学連携の充実

- ・ バイオ、医療等の領域をはじめ、優れた地方大学の研究成果などを産業界が十分に活用できていない。

#### (4) 地域再生の産業分野

地域を基盤とした先端産業

- ・ 地域環境（産業クラスター）の創出
- ・ 大学からの技術移転の進展
- ・ 横のネットワーク化，産学連携，伝統と先端技術の融合，人材育成が課題  
世界的な競争力を持つ新規事業をスピーディーに展開しやすい事業環境を作る。例えば，産業クラスターの創出，大学からの技術移転や産学連携システムの充実，横の信頼ネットワークの形成，伝統と先端技術との融合，産学連携のコーディネーター，高度な技術者や技術経営（MOT）人材の育成が課題。

ものづくり産業の新事業展開

- ・ 地域のものづくりの伝統・文化の潜在力
- ・ 世界に誇る「高度部材産業集積」
- ・ 横のネットワーク，製品化開発，販路開拓，資金調達に課題  
地域のものづくり企業が蓄積してきた技術・ノウハウや地域の伝統・文化を活かしつつ，新分野の事業が次々と展開されるような環境を作る。例えば，横の信頼ネットワークの形成，革新的技術を活かした製品開発，販路開拓，資金調達，地域ブランドの発信，ものづくりを支える人材育成などに対する支援が課題。

地域サービス業の革新

- ・ 集客交流や健康などで，独自の魅力を持った付加価値の高い事業の展開
- ・ ブランド作り，外部企業との連携推進に課題  
顧客本位でホスピタリティに溢れ，付加価値の高い事業が次々におこるような地域コミュニティを創る。また，地域の魅力（事業集積，文化，伝統，景観等）を「地域ブランド」化して，発信していく。例えば，コミュニティ内の信頼ネットワークの形成，産業観光の促進，外国人観光客の受け入れ態勢の充実，地域コミュニティが協力して行うモデル的な事業の早期の展開が課題。

食品産業の高付加価値化

- ・ 安全安心な食品の提供と市場開拓
- ・ トレーサビリティ，品質管理，ブランド化，効能に関する分析，技術開発と産学連携に課題  
地場の食材を利用して，付加価値が高く，消費者に対して安心・安全と健康を提供する新商品が次々と生まれるような環境を作る。地域コミュニティの協働が重要。例えば，食品の魅力のアピールする地域ブランド作り，トレーサビリティ（生産・流通の履歴の追跡）の確立，大学等との連携による成分や効能の特定，海外市場の開拓，新技術の導入による高付加価値化が課題。

#### (5) 地域再生の重点政策

顔の見える信頼ネットワークの充実

- ・ コーディネーター活動への支援や専門人材の育成
- ・ 地域における産学官連携の強化
- ・ 大学からの技術移転システム確立，大学との連携による起業家育成の拠点作り，産学官連携による技術開発への支援，伝統と先端技術との融合促進
- ・ 地域ブランドの形成・発信
- ・ 集客交流の分野での地域の魅力発信と情報発信，地域ブランドの保護強化，電子タグ等を利用した生産・履歴の追跡体制（トレーサビリティ）確立，食品等の海外市場開拓支援

## (6) 横断的重点政策

### 産業人材の育成

- ・ 製造業の競争力を支える製造現場の中核人材を強化する。このため、産学連携やベテラン人材の活用を支援するとともに、顕彰制度の充実等を図る。
- ・ サービス産業人材，IT人材，技術経営人材（MOT）などの育成を支援する。
- ・ 企業内人材投資を促進する。
- ・ 学校時代からのキャリア教育（ものづくり体験等）を推進する。
- ・ 草の根e-ラーニング・システムの導入，地域提案型プログラムの支援等により地域の人材育成を支援する。
- ・ 中小企業の経営者等の人材育成の充実を図る。
- ・ 女性・高齢者・外国専門人材の活用を促進する。

### 知的財産政策

営業秘密保護強化と技術流出防止の徹底  
ブランドの確立とデザインの戦略的活用

## 5 . 安芸高田市新市建設計画

安芸高田市新市建設計画（2003年5月）から産業振興関連部分抜粋（P51-56）

\*\*\*\*\*

### 5 多彩な生産と交流の街づくり

#### (1) 農林水産業の再生

##### 農業の振興

豊かで活力ある農業の振興を推進し、充実した農村生活の実現を図るため、「人（農業者）が輝く、もの（農畜産物が輝く、地域が輝く高田農業上を基本目標とした「高田郡広域農業振興計画」に基づき、高田郡農業協同組合等関係機関と連携・協力しながら農業の振興に総合的に取組み、地域経済の活性化や農家所得の向上を図ります。

具体的には、生産基盤や農業情報システムなど生産環境の整備を進めていくとともに、地域営農の確立や農地の流動化と作業受委託、有害鳥獣被害対策等を通じた地域内農地保全システムを構築し、将来にわたって農地を維持することができる仕組みを確立します。

また、認定農業者等地域農業をリードし、経営感覚に優れた農業経営者の育成を進めるとともに、新規就農者の育成等担い手の確保や新技術の導入を支援します。

さらに、地域農畜産物のブランド化に向けて、「たかた産直市」の広島店の開設など生産・流通・販売システムを強化し、消費者の信頼の確保と市場競争力の強化を図るとともに、無農薬等特別栽培農産物や自然循環型農業の展開、特産品・加工品の開発による6次産業化、地域内消費の拡大など、地域の特性を生かした特色ある農業を推進します。

そのため、農業振興センター（仮称）を設置し、農業経営者の育成、産地化への総合支援、農地保有合理化事業による担い手育成等の農業振興施策を推進します。

また、農村、農業、農畜産物など地域の特性を生かし、山村・都市交流施設や、市民農園などを整備し、「たかた産直市」等既存施設とのネットワーク化を図りながら、これらを有効に活用した都市との多様な交流を推進することにより新市の均衡ある発展を図ります。

##### 林業の振興

森林の有する多様な公益的機能を重視しながら、豊かな森林づくりを進め、林業経営の安定を推進していくため、その指針となる「森林総合計画」を策定します。

地域における森林管理意欲の増進を図りながら、高田郡森林組合と連携し、森林整備事業等による計画的・集団的な造林・保育・間伐の総合的な推進を図るとともに、自然環境の保全に配慮した林道等生産基盤の整備を進めます。

また、松くい虫被害対策等の充実を図るとともに、特用林産物の生産振興を推進します。

さらに、公共建築物などへの木材利用を進め、需要拡大を図るとともに、森林レクリエーションの場としての森林空間の活用や都市と連携した森林の管理・育成など多様な林業振興の展開を推進します。

##### 水産業の振興

水産業の振興を推進し、川との豊かな係わりを継承していくため、江の川などの水質の保全やごみの投棄・散乱の防止など、住民と協働しながら河川環境の保全に取り組めます。

また、放流用種苗の安定的供給や外来魚種の排除等について漁業協同組合の活動を支援し、水産資源の維持増大を図り、魚影に富んだ豊かな川づくりを推進します。

また、住民が水や水辺の生き物とふれあう場として、魅力ある河川環境の整備を推進し、河川の多面的な利用を推進します。

## 主な事業

施策	主要事業	事業概要
農業の振興	中山間地域総合整備事業[県事業]	ほ場，暗渠排水，農道，用水路の整備(高宮町)
	農村振興総合整備事業(再掲)[県事業]	ほ場，集落道，防災安全施設，農村公園，用地の整備(甲田町)
	経営体育成基盤整備事業[県事業]	ほ場の整備(吉田町，甲田町)
	ほ場整備事業[県事業]	ほ場の整備(高宮町)
	一般農道整備事業[県事業]	農道の整備(吉田町，高宮町)
	基幹水利施設補修事業[県事業]	幹線パイプラインの補修(吉田町，八千代町)
	ため池等整備事業[県事業]	ため池の整備(吉田町，高宮町，甲田町)
	農業振興地域整備計画等策定事業	農業振興地域整備計画等の策定
	農村総合整備事業(再掲)	ほ場，農道，集落道，農村公園，水辺環境施設，景観保全施設の整備，(八千代町)
	基盤整備促進事業	ほ場，暗渠排水，用排水路の整備(甲田町)
	農地等高度利用促進事業	ほ場の整備(吉田町)
	畜産環境総合整備事業(再掲)	家畜排せつ物処理施設の整備，堆肥運搬車の購入(高宮町)
	認定農業者及び集落営農組織経営確立促進機械，施設等支援事業	制度を全市へ拡充
	営農技術指導事業	農業振興センター(公社)で推進
	新規就農者支援事業	制度を全市へ拡大充実
	農作業の受委託・農地保有合理化作業	農業振興センター(公社)で推進
	ハウス設置助成事業	制度を全市へ拡充
	畜産振興各種補助事業	制度を全市へ拡充
	特産品広島市販売施設整備事業	たかた産直市の広島店の開設
山村・都市交流施設整備事業	農産物加工・体験交流施設，直販施設，駐車場等の整備(甲田町)	
市民農園整備事業	市民農園の整備(高宮町)	
林業の振興	森林総合計画策定事業(再掲)	森林総合計画の策定
	森林整備事業	計画に基づいた森林整備の実施
	松くい虫対策事業	伐倒駆除の実施
	特用林産物振興事業	特用林産物の生産振興支援
	有害鳥獣対策補助事業	対象者・補助基準の拡充
	水土保全林整備事業	新植，保育(全市)
	林道開設事業	林道入江戸島線の整備(吉田町～向原町) 林道天王山線の整備(高宮町)
水産業の振興	河川整備事業[県事業](再掲)	水辺環境等の整備

## (2) 商工業の振興

商工業の振興を推進し，地域経済の活性化を図っていくため，商工会の活動を支援するとともに，商工会と連携し，産業の高度化に対応した中小企業対策の充実を進め，地域産業の育成を図ります。

小売商業については，タウンセンターにおける賑わいの場の創出を図っていくため，沿道等における商業・業務機能の立地を誘導するとともに，商店街の活性化と魅力づくりに向けた事業者の主体的な取り組みを促進し，各種事業への助成など支援の充実を図ります。

また，各地域拠点周辺やその他の地域における商店街については，商店経営の近代化・高度化に向けて，各種事業の助成などの支援を通じて近隣商店街として育成します。

さらに，高齢社会に対応した新たなサービスの展開など地域の実状や時代の変化に応じた柔軟性のある小売商業の取り組みを促進します。

また，「安芸たかた広域ネットワーク」による光ファイバー網の整備の拡充，人材育成の支援などを通じて地域企業の情報化を促進するとともに，こうした情報基盤や地域高規格道路東広島高田道路など広域交通網の整備を生かした企業立地に向けて，活発な企業誘致活動を展開します。

主な事業

施策	主要事業	事業概要
商工業の振興	商工会活動支援事業	商工会各種活動の支援
	商店街活性化計画策定事業	商店街活性化計画の策定
	地域情報化施設整備事業(再掲)	ビデオサーバ・告知放送設備の整備, 光ケーブル敷設双方向による情報ネットワークの整備

(3) 新たな産業づくり

地域における新たな産業の育成を進め, 雇用の場を創出して, 若者が定住する活力ある地域づくりを推進していくため, 「たかた産直市」の広島店を開設し, 新たな販売ルートや市場の開拓に取り組むなど, 環境整備を進め地域資源を生かした6次産業化の促進や農業の企業化などを積極的に支援します。

また, 事業者等の研究機関との連携を促進するとともに, 融資制度の有効活用を支援し, 新たな製品・特産品の開発や技術の向上といった産業競争力の強化を図ります。

さらに, 「安芸たかた広域ネットワーク」を活用したベンチャービジネス, S O H Oなどの起業化を支援するとともに, 異業種交流などを支援し, 地域産業の拡大と活性化を促進します。

主な事業

施策	主要事業	事業概要
新たな産業づくり	特産品広島市販売施設整備事業(再掲)	たかた産直市の広島店の開設
	起業支援事業	起業のための金融・住宅支援等

(4) 交流ネットワークづくり

地域資源を生かした観光の推進

多彩な観光交流資源や都市に隣接した条件を生かし, 交流人口の拡大や観光産業の育成を通じて, 地域経済や地域社会の活性化を推進していくため, 農業・農村, 自然などを活用した山村・都市交流施設や市民農園など新たな観光交流資源の整備や既存施設の魅力化等を進め, これらのネットワーク化を通じた魅力ある周遊型観光ルートの形成を図ります。

また, 特色あるイベントの開催や PR 等誘致宣伝活動, サイン施設等の環境整備外進ずるとともに, インフォメーションセンターの整備, ホスピタリティの向上など受け入れ体制の強化を図ります。

多様な交流活動の推進

国内外の他地域との多様な交流を通じて, 心豊かな市民生活やふれあいと活気ある地域社会を形成していくため, 豊かな自然や多彩な農林水産資源, 中世遺跡を中心とした歴史的遺産, 神楽などの伝統芸能を生かし, 魅力ある交流拠点としての地位を高めていくとともに, 中国山地やまなみ大学をはじめとする特色ある交流メニューの開発・提供を進め, 地域資源を多彩に活用した活発な交流活動の推進を図ります。

また, これまでの実績を踏まえ, 国内外の都市との交流を今後とも引き続き推進し, 国際感覚に優れた人材の育成, 地域のリーダーの育成を図るとともに, 国際化・グローバルイズムへ対応できる地域づくりを推進します。

主な事業

施策	主要事業	事業概要
地域資源を生かした観光の推進	山村・都市交流施設整備事業(再掲)	農産物加工・体験交流施設, 直販施設, 駐車場等の整備(甲田町)
	市民農園整備事業(再掲)	市民農園の整備(高宮町)
多様な交流活動の推進	国際交流事業	交流事業の推進, 人材の育成
	交流イベント開催事業	交流事業の推進, 交流イベントの開催

## 6. 地域の主要な資源の概要

### (1) 地域の主な企業の例

#### 湧永製薬(株)

全国から毎年数百人の薬局関係者が甲田町を訪問している。これを域内での周遊観光に誘導し、周遊観光ルート作りのモデルにできないか。また、これだけの数の健康に関心の強い人々が毎年集まることや、全国3000の薬局とのネットワークの存在を、健康に関する何らかの取り組みに結びつけることはできないか。

#### 南条装備工業(株)

自動車用総合内装部品の総合メーカーであり、自動車メーカーからの依頼を受けて開発から製造、納入までを一貫生産していることから、台湾を中心に海外からの視察が多い。産業観光の視点からの活用が考えられないか。また、内装部品の技術を使っての地域の産業創造は考えられないか。

#### ドリームベッド(株)

家庭用、事業用の総合ベッドメーカーであり、八千代町内には工場及び物流センターが進出している。ベッドのほか、新事業としてヤシの繊維をロール状にしたものを、土木用資材として製造している。自動車用内装部品にも活用されており、そのほかにもこの技術を使った産業創造は可能ではないだろうか。

#### 社会福祉法人 清風会

クリーニングの福祉工場を核として、身体・知的・精神の総ての障害に対応し、障害者の「完全参加と平等」にむけたノーマライゼーションの実現をめざして、生活施設整備も含めた総合的な施設づくりを行っている。先進的な取り組みに視察者も多く、産業観光の視点や市民との交流から新たな動きを作り出せないか。

### (2) 地域の主な教育関連施設の例

#### 鶴学園八千代校舎

広島工業大学等を運営する鶴学園が、土師ダム湖畔に自然に親しみながら陶芸や木工、農業などの創作活動や各種スポーツを楽しむためのセミナーハウスを開設し、広く一般の利用者に提供している。広島市に近い立地と自然環境の良さを生かしたセミナーハウスとして、地域の可能性を示すシンボルとしての役割が期待される。

「参考資料2 地域の主な企業・教育関連施設の概要」参照。

### (3) 地域の主な観光関連施設等の例

安芸高田は、毛利元就に代表されるように「歴史文化に触れる街」であり、「大自然と親しむ」ことや「温泉でのんびり心を癒す」など、目的に応じて楽しむことのできる観光資源を有している。

#### 温泉

江戸時代から百有余年の歴史を持った天然ラドン温泉の「たかみや湯の森」と、天然温泉に加えて旅籠や湯治宿、茶店などの町並みを再現した「神楽門前湯治村」がある。「たかみや湯の森」は日帰り型温泉で、露天風呂や打たせ湯等があり、特に酒米生産地にちなんだ酒風呂が好評である。「神楽門前湯治村」も日帰り型温泉であるが、自炊用の湯治宿も設置している。又、週末には町内の13神楽団による神楽公演が実施され、にぎわいを演出している。

#### 歴史・文化

吉田町を中心に戦国武将・毛利元就にゆかりの史跡が多く存在し、美土里町及び高宮町を中心に郷土芸能として神楽の風習が残っている。

毛利元就の居城であった郡山城跡や元就の墓などの史跡が数多く残っており、戦国時代の軌跡を追うことができる。

神楽は笛や太鼓のお囃子によって、華やかな衣装やさまざまなお面をつけた人たちが、氏神様へ奉納する神事としてある物語を題材に舞うものであるが、祭事や祝い事には欠かせない郷土芸能として今に伝えられている。

#### 花や自然散策の名所

向原町には全国的にもめずらしいかたくりの自生地があり、花しょうぶ園も色鮮やかで花しょうぶ祭りも開催される。甲田町では四季折々の花が咲き誇る総合洋風庭園の湧永満之庭園や唯称庵跡のカエデが秋になると真っ赤に色づく。八千代町には桜、藤、アジサイが楽しめる土師ダムなど、市内各地で年間を通じて花や豊かな自然によって心を癒される場所を提供している。

#### 観光農園・体験農園

吉田町と甲田町には梨園が、美土里町にはリンゴ園、八千代町にはブドウ園等の観光農園を運営している。又、実際に農業の体験を希望する市民に対して年間を通じて農業を学ぶことができる施設として、「むかいほら農業大学」では古代米の栽培や正月飾りづくりなどを体験でき、甲田町ではブドウづくりや野菜づくりを体験できる。

#### アウトドア施設

自然に囲まれた環境を活かして、「エコヴィレッジかわね」や「琵琶ヶ池いこいの森キャンプ場」などのキャンプ施設に加え、ニュージーランドの牧歌的な雰囲気の中で自然を楽しめる「ニュージーランド村」や、観光牧場の「テージャスランチ」、「滝ヶ谷峡谷」などの釣り堀などアウトドアライフを楽しむ施設が充実している。

「参考資料3 地域の主な産業資源一覧」参照。

## 7. 今後の産業振興の留意点

全国的な人口減少傾向と国境を越えた地域間競争の時代においては、従来のような産業振興の考え方は通用しなくなっている。

安芸高田市のような地方小規模都市においては、単純な右肩上がりの成長志向にとられることなく、地域の特性を活かして、生きがいや自己実現と結びつきたいわば地に足の着いた産業形成をめざしていく必要があると考えられる。

### (1) 地域経済の視点

人口当たりの市町村内総生産は、就業率と労働生産性により決まる。当市の場合には就業率がすでに他と比較して高い水準にあることから、地域における労働生産性の向上に留意していく必要がある。

### (2) 企業への支援

既存進出企業への支援

既存進出企業は、雇用の場を供給し、地域に対して直接的・間接的に様々な稼得機会を提供しており、これらの企業を支援する仕組みを充実させる必要がある。

- ・ 既存企業の高度化（生産性向上，不良率削減等コスト削減，体質強化等）
- ・ 既存企業の新規分野進出（用途開発，市場開拓等）
- ・ 既存企業の独自差別化（新技術開発，新商品開発等） 産学連携

進出企業と地場企業との交流

進出企業と地場企業との交流を通じて取引や技術移転の促進を支援する必要がある。原材料や中間財の供給，賃加工といった分野だけでなく，修理・補修や工場クリーニングなどのサービス部門については，特徴的なノウハウを有する中小企業でも新たな取引に参入できる可能性がある。

企業誘致

企業立地は全般に減少しつつあるが，企業誘致の可能性が消えた訳ではない。特に製造業の立地は，地域の雇用確保に貢献するだけでなく，労働生産性の向上に寄与する。

### (3) 広域化メリットと地域資源の活用

広域的ブランドイメージ

旧6市に散在している多様な観光資源，食材，特産品を「あきたかた」の統一イメージのもとでプロモートしていくことが重要である。

新たな交流機能の整備

高齢者や退職者にターゲットをあわせた交流機能の整備を図っていくことが考えられる。

域内交通手段の確保

自分で運転できない高齢者が増加しているため，最寄りの駅や観光施設を巡回するバスを確保することが望まれる。

民間資金とノウハウの活用

既存の観光資源の維持・補修・リニューアル，新たな観光資源の整備にあたっては，公共セクターは支援や基盤整備に徹し，民間の資金とノウハウを活用することが重要である。

#### 郵便局の活用

郵便局を新たな情報拠点，交流拠点，販売拠点として活用していくことも考えられる。

#### 地縁・血縁のネットワーク

地域から都市部へ転出した人たち等との地縁・血縁ネットワークの構築により，特産品の販売のみならず，人的交流なども期待される。

### (4) 保健・福祉・医療産業

#### 保健・医療・福祉機能蓄積の活用

市内には比較的規模の大きい総合病院や介護・福祉施設があり，保健・福祉・医療分野の従業者数が相対的に多い。隣接する広島市，備北地域，芸北地域からの利用者増大を図りながら，保健・福祉・医療を産業として積極的に振興していくことが必要である。

#### 保健・医療・福祉分野への参入促進

建設業などの既存産業から保健・福祉・医療分野への参入・誘導を促進することも重要である。そのため，研修機会の充実などを図っていく必要がある。

#### 保健・予防医療関連産業の育成

スポーツ交流施設，レジャー・リクリエーション施設が多いことから，青少年を対象とするだけでなく，高齢者や退職者の保健・予防医療を目的とした交流産業を育成していくことも考えられる。

### (5) 農業分野の産業振興

#### 都市近郊型農業の振興

百万都市に隣接しているという強みを生かし，より高付加価値の作物の生産や農業生産物の商品化などに努める必要がある。

また，高齢化のいっそうの進展と後継者不足に対応するため，中核的農家や農業法人の育成，株式会社の導入などの検討が必要である。

### (6) 産業支援体制の整備

#### 経済団体と行政との連携

産業振興のための各種資源が限られている安芸高田市においては，限られた資源を集約して有効に活用していく必要がある。

また，これまでは，行政は農業中心，商工会は商業系の中小零細事業者向けの経営改善指導などの会員向けサービス中心であったものを，地域の強みと資源を生かした幅広い産業振興対策の実施へと発展させていく必要がある。

## 第2部 産業振興ビジョン

(理念)「人と企業の可能性を引き出す産業振興」

(説明)

人と企業の持つ可能性を発揮できる産業振興環境を整備していくことにより、人が輝き、自信とプライドを持って活躍できる地域づくりをめざす。

### [ビジョン]

#### ・人がつながり人が育つ

安芸高田市の新市建設計画に掲げられた、「人 輝く・安芸高田」を基本に、顔の見えるネットワークづくりと人材の育成を中心的課題として取り組む。

(戦略1) 人の交流による新たな可能性の開拓 [交流]

- 顔の見える人のネットワークづくりにより、地域産業の新たな可能性を開拓

(戦略2) 人材育成による産業の高度化 [人材]

- 事業活動に必要な技術、経営等に必要な研修機会を提供し、産業振興を担う人材を育成

#### ・新たな挑戦を支援する産業支援環境の整備

地域にあって夢を追い挑戦する企業を支援するために、技術開発や新事業展開や人材育成を支援

(戦略3) 新たな挑戦を理解し応援する環境づくり [チャレンジ]

- 技術開発、産学連携、企業支援、異業種交流などの支援により、新たな挑戦を理解し応援する産業支援環境づくりを推進

(戦略4) 産業活動を支えるインフラ整備 [インフラ]

- 情報インフラや交通インフラなどの整備を推進

#### ・広域性と地域特性を生かした産業振興の推進

都市近郊の田園都市としての地域特性を活かした産業振興を推進

(戦略5) 広域的対応による新たな可能性の開拓 [広域]

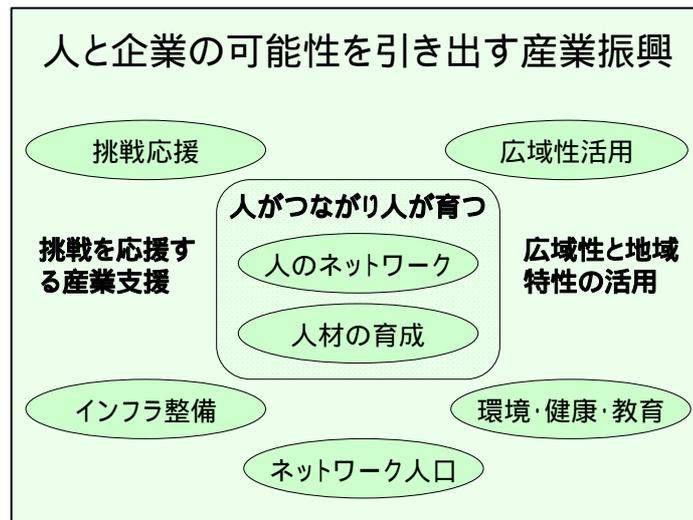
- 広域合併によって生まれた安芸高田市ならではの、広域的な魅力を生かした新たな産業の振興

(戦略6) 田園環境を生かした健康・環境・教育産業の振興 [自然]

- 都市に近接し交通の便が良い上に豊かな自然環境に恵まれた地域特性と進出企業を生かし、健康・環境・教育に注目し、ヘルスケア関連産業や温泉、森林レクリエーション、研修・セミナー機能等を開発

(戦略7) 交流人口、ネットワーク人口の拡大 [ネットワーク]

- 交流人口の拡充と、地縁・血縁によるふるさとネットワーク人口の確保を推進



[実施体制]

地域の力を結集した一体的な産業振興体制の整備

地域の特性に応じた適切な産業振興対策を迅速に実行していくための体制整備

1. 商工会の広域化

- 行政の広域合併に対応した、商工会の広域化と機能強化

2. 産業活動支援センターの設立

- 行政と産業界が連携した新たな産業振興組織の設立

[キャッチフレーズ]

「人と企業のチャレンジ応援！安芸高田市」

(説明) 人が新たなことにチャレンジし輝くことによって、産業が活性化していくことをめざす。

「参考資料9 歴史の視点から見た地域の力」参照。

## 第3部 産業振興対策

### ・人がつながり人が育つ

安芸高田市の新市建設計画に掲げられた、「人 輝く・安芸高田」を基本に、顔の見えるネットワークづくりと人材の育成を中心的課題として取り組む。

#### (戦略1) 人の交流による新たな可能性の開拓

- 産業支援機関と地域内企業との交流，市外からの進出企業（以下「進出企業」）と地場企業など企業相互の交流，立地可能性企業との交流，産業支援組織の交流など，顔の見える人の交流により，地域産業の新たな可能性を開拓し，地域経済の自立的発展をめざす。

##### (1) 行政・経済団体と地域内企業との交流

この地域に立地している企業の，立地理由，その後の状況と評価，問題点や，地域内発型の企業の直面している課題などの状況を把握し，地域の課題を把握するとともに今後必要な支援策を講じる。

- ・定期的な企業訪問，企業の幹部との定例会議の開催
- ・専門相談員の確保と相談コーナーの開設

##### (2) 企業相互の交流

進出企業と地場企業との交流や異業種交流など，企業相互の交流を推進し新たな可能性を開拓する。

- ・同じ産業分野の企業グループ化による仮想的な規模の拡大や，異業種のグループ化による仮想的な一環生産体制の実現など，企業相互の交流拡大による競争力の拡大と新たな可能性の実現への取り組みを奨励し支援する。
- ・共同受発注，共同開発，共同研究，人の交流など，地域での人間関係を生かした人のネットワークによる連携を支援する。
- ・専門家や企業OBなどとの交流を進め，地域企業の課題解決を支援する。

##### (3) 地域外の企業関係者等との交流

地域外の企業関係者や産業振興関係者等との交流を広げ，企業立地動向に関する情報ネットワークを構築し，迅速な対応を図る。

- ・少なくとも広島市あるいはその周辺地域の企業について，公的・私的に多様なネットワークを整備し，工場新設や移転等に関する情報の把握に努める。

##### (4) 企業情報の発信と共有

地域内の企業についての情報を，ウェブサイトで紹介し企業の交流のきっかけづくりを図る。

- ・主要製品，特徴的な技術，地域貢献活動などの情報を収集し公開。

---

## ( 戦略 2 ) 人材育成による産業の高度化

- 事業活動に必要な技術，経営等に必要な研修機会を提供し，産業振興を担う人材育成による産業の高度化をめざす。

地域内の企業がどのような人材を求めているか，人材の確保などでどのような問題を抱えているかを把握し，地域全体としての人材の育成などに取り組む。

### (1) 人材の育成

経営や技術面などについて，地域の産業人材の育成を図る。

- ・平成 16 年度から開始しているビジネス塾を発展させて，専門人材育成のための職業人（従業員）対象の経営や技術についての教育機会の拡大をめざす。
- ・企業経営者など地域内の専門人材を研修等で活用するなど，地域ぐるみで人材育成に取り組む。
- ・人材育成を促進するために，人材育成資金の支援等についても検討を進める。
- ・同時に，産業支援を行う人材育成の育成についても，積極的に取り組む。
- ・人材育成を進めるため，教育機関や市内でのセミナー開催の誘致などに取り組む。

### (2) 人材の受け入れ

Uターンや市外からの通勤など，市域外からの産業人材の受け入れを進める。

- ・UターンやIターンなどについて，ウェブサイトを通じた求人情報や居住環境情報の提供などにより，積極的に人材の受け入れ支援対策を進める。
- ・広島市からの通勤圏であることをPRするなど，市外からの人材確保も図る。
- ・知識・技術を有する外国人専門家の活用や外国人労働者のコミュニティへの受け入れなどについて検討を進める。

### (3) 人材の確保

産業人材の確保のために，人材のマッチングや普段からの地域内企業との接点作りなどに取り組む。

- ・市域内企業を対象としたアンケートなどにより人材ニーズを把握し，必要な人材確保の方策を検討する。
- ・人材バンクなど人材のマッチングの推進体制の整備を検討するとともに，企業の広域人材リクルートの支援を図る。
- ・学生時代における市域内企業でのインターンシップ（企業体験研修）など，早い時期からの地元企業との交流機会を設けて，地域で働くことの意識醸成を図る。
- ・教育研修などによるキャリアアップの促進を図るための環境整備を検討する。

「参考資料 4 安芸高田ビジネス塾」参照。

## ・新たな挑戦を支援する産業支援環境の整備

地域にあって夢を追い挑戦する企業を支援するために、技術開発や新事業展開や人材育成を支援。

---

### (戦略3) 新たな挑戦を理解し応援する環境づくり

- 技術開発，産学連携，企業支援，異業種交流などの支援により，新たな挑戦を理解し応援する産業支援環境づくりをめざす。

#### (1) 企業の高度化

生産性向上，不良率削減等コスト削減，体質強化，サービス向上等による既存の企業の高度化を支援する。

- ・ 情報提供，人材等のあっ旋など，企業の高度化への取り組みを支援する。
- ・ 特許，法律，情報化，工具・部品等調達，経営，製品開発，環境問題，その他のコンサルティングなど，企業の高度化に必要な産業支援サービス業への支援を行う。

#### (2) 新規分野進出，新事業創出

新技術開発，新商品開発，新用途開発，新市場開拓など，既存企業の新規分野進出やベンチャー企業等による新事業創出を支援する。

- ・ 既存企業の新分野進出について，情報提供，資金支援などにより支援する。
- ・ ベンチャー起業支援について，人材育成，経営支援，地域の支援意識の醸成，地域出身者のUターン促進なども含めて，支援する。

#### (3) 既存企業の独自化・差別化

新技術開発，新商品開発などの既存企業の独自化・差別化を支援するため，産学連携などを推進する。

- ・ 商工会の経営指導員など身近な立場で企業の支援をする人材が，大学や試験研究施設などと連携して，研究開発などを支援する。

#### (4) 総合的産業振興

農林業，商業，工業，建設業，サービス業，観光業など，地域の産業の総合的な連携による産業振興を支援する。

- ・ 農工連携などによる，地元の農林産品を素材とした商品開発，加工，販売，観光資源化など，各産業横断的に連携しての地域の産業振興。

#### (5) 地域企業の活動環境の整備

廃棄対策，物流効率化，人材育成など，企業のための立地環境の向上のための共同での取り組みを推進する。

- ・ 廃棄物の資源化，物流の共同化，人材研修の共同実施などの推進。

「参考資料7 産業振興と企業活動支援」参照。

---

## (戦略4) 産業活動を支えるインフラ整備

- 情報インフラや交通インフラなどの整備をめざす。

### (1) 交通インフラ

地理的立地の良さを生かすためには、道路や鉄道などの交通インフラの整備を重点的に進める必要がある。

地域外との交通インフラの整備

- ・広島市との交通は、距離に比べて時間がかかるとの指摘があり短縮を図る必要がある。
- ・空港・広島大学等が所在する広島中央地域との交通インフラの整備を、重点的に進めていく必要がある。

地域内交通環境の整備

- ・公共交通機関についても、広域観光ルートの市域内の観光拠点を結ぶ循環バスや、緑の環境を楽しめるバスなど、市域外からの観光客の地域内移動と地域内の高齢者等の双方が利用できるような交通網の整備をすすめる必要がある。
- ・地域内公共交通手段の整備は、買いまわり人口の増加も期待されることから、通院・通所や買い物目的の地域内の高齢者の利用に配慮が求められる。

### (2) 情報通信基盤整備（デジタルインフラ）

ブロードバンド化において地方と都市部との格差は拡大しており、市域内の企業の地理的不利を軽減するため、高速情報伝送ネットワークの整備と活用促進が必要であり、通信回線の高速化と情報通信インフラの融合や高度化の視点が必要である。

- ・情報通信インフラの整備には、高速の通信基盤の整備とともに、いつでもどこでも使える環境の整備やコミュニティネットワークづくりの視点が必要がある。
- ・情報通信基盤の維持には、地域での運営体制の整備が必要となる場合もあり、情報発信・交流の推進体制と合わせて、その整備を検討する必要がある。また、普段使いの環境が災害時にも活用できるような危機管理の視点と、技術革新による通信基盤の陳腐化への配慮が求められる。

「参考資料8 中山間地域における情報メディアの活用とネットワークの構築」参照。

### (3) 住居インフラ

市域外からの転入を促進するため、良好な自然環境や広島市への通勤圏であることのPRや地域内の就労機会の紹介、良質の住宅の提供と紹介を進める必要がある。

- ・周囲の自然環境を生かした住宅提供など、市域外からの転入者を対象とした良質な住宅整備が求められる。
- ・住宅の提供とともに子育てへの支援など居住環境の整備にも取り組む必要がある。

## ・ 広域性と地域特性を生かした産業振興の推進

安芸高田市としての広域性や都市近郊の田園都市としての地域特性を活かして、個性ある産業の振興を推進。

---

### ( 戦略 5 ) 広域的対応による新たな可能性の開拓

- 広域的な魅力を生かして、新たな産業振興に取り組む。

#### (1) 統一イメージの形成

高田郡 6 町が合併して新たな市が生まれたことを象徴するような統一イメージを生み出し、安芸高田市一体としてのアピールを行う。

- ・ 安芸高田市を一体として表現する統一的イメージの形成とロゴ(商品名などを特徴的な字体や文字で表現したもの)、シンボルマーク、シンボルキャラクターなどの制作、集中キャンペーンの実施。
- ・ 広島市等への安芸高田市としてのアンテナショップの開設などの検討。

#### (2) 広域的な観光資源等の開発

豊かな自然環境と歴史文化遺産や温泉などのレクリエーション施設等を生かして、広域的な視点での観光ルートの設定や新たな観光資源の開発により、旧 6 町単独では困難であった魅力づくりを進める。

- ・ 市域内の魅力ある景観や散歩道などの自然環境、歴史文化遺産、レクリエーション施設などの全体的把握を行い、その魅力の一体的な活用方法を検討する。
- ・ 市域内の観光資源を一定のコンセプトの元に結んだ広域観光ルートを設定し、その PR のための宣伝資材の作成を行う。
- ・ 市域内の飲食店の魅力を紹介するグルメマップの制作や、関連イベントなどの企画を行う。

#### (3) 都市住民との交流機会の充実

広島市等に居住する都市住民や安芸高田市出身の他都市居住者などを対象として、緑の自然環境を生かした交流機会の充実を図る。

- ・ 農業体験機会を提供する市民農園(クライン・ガルテン)や体験農場を産業の一部門として位置づけ、積極的に育成していく。
- ・ 高齢者の交流機会の提供を図るため、高齢者が大切に育てた野菜や果物や花き、自家製の漬物や団子を少量でも販売できる「百円市」、特設コーナーなどの充実を図る。
- ・ 都市との交流機会の開発を目的として、伝統的な祭祀などにあわせて、食糧への感謝と特産品の振興・販売促進を行う「あきたかた収穫感謝祭」のような新たな祭りを創設することも検討する。

「参考資料 10 地域産業開発事業の進め方に関して」参照。

---

## (戦略6) 田園環境を生かした健康・環境・教育関連産業等の振興

- 自然環境に恵まれた地域特性と健康関連企業の立地を生かし、健康・環境関連産業や温泉、森林レクリエーション、健康を意識した広域観光ルートの開発などをめざす。健康食品、医薬品、湯治、リラクゼーション、ヒーリング(癒し)などの複合的な魅力づくりを進める。

### 1. 環境

都市近郊でかつ豊かな自然に恵まれた環境を生かし、新たな産業振興を推進する。

#### (1) 景観の保全と活用

自然に恵まれた地域の景観の維持に努めるとともに、その魅力を市域内外に積極的にPRする。

- ・緑の景観100選や景観コンテストなど、市民の景観意識を高めるとともに、その魅力をアピールする。
- ・クリーン&グリーンの田園産業都市として、自然環境を生かしたグリーンツーリズムの推進を図る。

#### (2) 自然エネルギーの活用

木質バイオマスなど自然のエネルギーの活用を進め、住民の環境意識を高めるとともに、産業としての発展を推進する。

- ・木質バイオマスの活用など、地域内の自然エネルギーの活用を推進するとともに、それに関連した新たな産業の発展を推進する。
- ・リサイクルを進め環境教育を推進することにより、環境保全意識の向上を図る。

### 2. 健康

湧永製薬という世界的に活躍している健康関連企業の立地を生かし、環境と組み合わせ、新たな観光の魅力や産業創出を推進する。

#### (1) 新たな観光の魅力創出

企業の持つ魅力を生かした「産業観光」と自然環境、温泉などの組み合わせにより、新たな観光の魅力を創出する。

- ・湧永製薬と森林観光、歴史遺産、温泉などを組み合わせて、新たな魅力を持つ観光ルートなどを開発する。
- ・湧永製薬など市域内の企業を訪問する多くの関係者を対象として、市域内で滞在し楽しめる環境整備を図る。

## (2) 高齢者関係

高齢者関連ビジネスは、飲食関係や住宅改修、ケアサービスなど今後大きな市場であり、医療機関の充実した地域特性を生かした、開発の推進を図る。

- ・大都市近郊の立地特性を生かし、豊かな自然の中で健康に関する意識の高い高齢者が森林浴ウォークや園芸などの活動を楽しむとともに、温泉でリラックスできるような、一体的なサービスの提供を図る。
- ・世界的に活躍している健康関連企業の立地を生かし、産業観光としての湧永製薬の工場見学や健康食材の学習、健康を増進する運動の体験指導など、高齢者を対象とした健康学習体験の場としてアピールする。

## 3．教育（研修・セミナー機能）

社会人を対象とした継続教育の重要性が高まっており、大都市に隣接し交通の便が良い上に豊かな自然環境に恵まれて研修等に集中できる立地を生かして、研修・セミナー等の受け入れ環境を整備し、その誘致をめざす。

- ・土師ダム湖畔に整備された鶴学園八千代校舎のセミナーハウスの活用を促進し、陶芸や木工、農業等の創作活動や各種スポーツなど多様な分野でのセミナーの開催可能性を検討する。
- ・市域でのセミナー開催に対する支援対策をまとめ、市域でのセミナー開催の優位性や可能性などを積極的にPRする。
- ・豊かな自然環境を生かした緑のセミナーハウスの整備など、セミナーの受入環境の整備を検討する。

## 4．農林業分野の産業振興

豊かな自然環境に恵まれた特性を活かし、農林業分野の産物を加工し商品化するなど、農林業分野と一体化した産業振興を図る。

- ・農林業産物を生かした商品の開発、製造、流通を図るため、地域として一体となった推進体制の整備を図る。
- ・農工連携など、大学や試験研究機関とも連携して、農林業分野の産学連携の推進を図る。
- ・農林業と観光産業とのタイアップにより、自然の中での体験型の余暇活動機会の提供を図る。

「参考資料 11 湧永庭園と地域の景観づくり」参照。

## (戦略7) 交流人口，ネットワーク人口の拡大

- 交流人口の拡大とともに，より安定性が期待できる，地縁・血縁による都市とのふるさとネットワーク人口の拡大をめざす。

### 1. 交流人口

大都市に隣接した立地特性を活かして，豊かな自然環境と歴史文化遺産，レクリエーション施設などを生かして，大都市圏などからこの地域を訪れる人々，いわゆる交流人口の増大とリピーターの定着を図り，地域の産業振興に結びつける。

### 2. ネットワーク人口

一人っ子が地域から都市部に出て行っている現状から，地域出身者との地縁・血縁による「ふるさとネットワーク（仮称）」を構築し，地域産品の中元・歳暮用などの販売，地域の産業振興の応援団の発掘，Uターン起業の支援など，地域外の人材をネットワーク人口として活用する必要がある。

#### (1) ネットワークの構築

都市在住の地域出身者との地縁・血縁ネットワークを構築する。

#### (2) ネットワークの活用

地域の産品の販売  
地域の産物の販売ルートとして一定の効果が期待される。  
地域の産業の応援団形成  
地域出身者のそれぞれの専門知識経験や人的ネットワークを活用しての，地域が抱えている課題を解決するための支援も期待される。

##### Uターンの受け皿

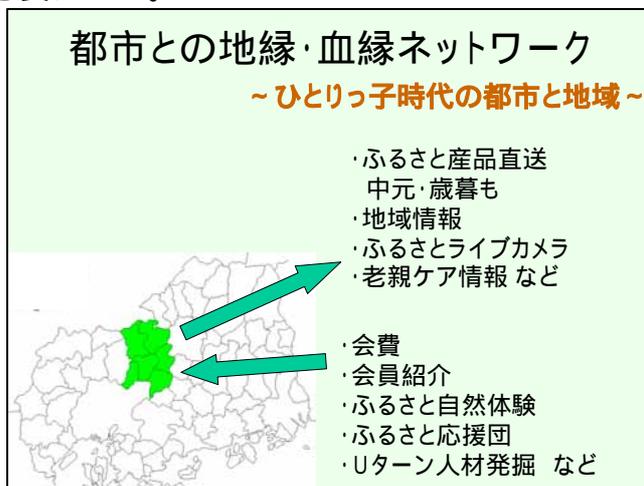
ふるさと情報を提供することにより，都市部で働いている地元出身者がUターンを考えた際の相談の窓口役になることも期待される。

##### 老親ケア情報

都市部の住む地元出身者が，ふるさとに住む老親への気がかりを軽減するサービスを提供することも考えられる。

##### ふるさとライブカメラ

会員には，地域に設置したインターネットに接続したビデオカメラにより，随時ふるさとの景色を楽しめるなどのサービスを提供することも考えられる。



## 第4部 産業振興体制の整備

### 地域の力を結集した一体的な産業振興体制の整備

町行政の産業振興は農業対策が中心であり商工会の業務は個別企業の経営指導などが中心だったが、安芸高田市においては、商工業振興対策の充実など産業振興対策の強化を図る必要がある。しかしながら、行政・商工会ともに広域的な産業振興対策の蓄積が薄く人材・資金ともに十分とは言えない状況であるため、行政と商工会が連携して産業振興体制の整備を図っていく必要がある。

#### 1. 商工会の広域化

- 行政の広域合併に対応した、商工会の広域化と機能強化をめざす。

行政と商工会の連携を進めるに当たっては、まず商工会の広域化を図り、安芸高田市全域の産業振興について統一的に取り組める商工会体制を整備する必要がある。

それは地域に根ざした身近なサービスと、広域的に提供される専門的なサービスで構成されるべきである。特に、新市に対して広域全体として発言できる体制整備のためには、新市の行政区域に対応した商工会の合併が必要である。

##### (1) 広域化と地域活動

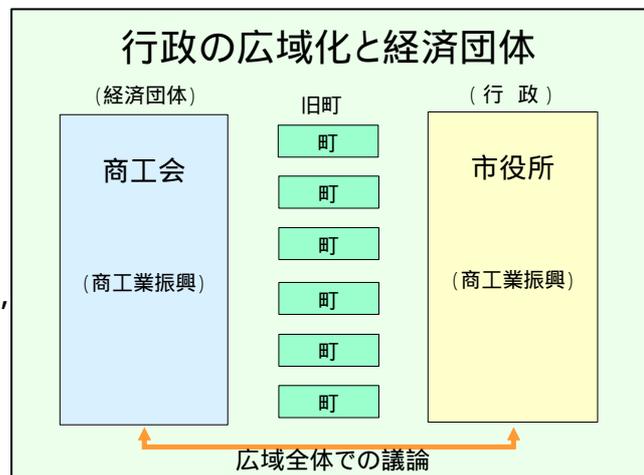
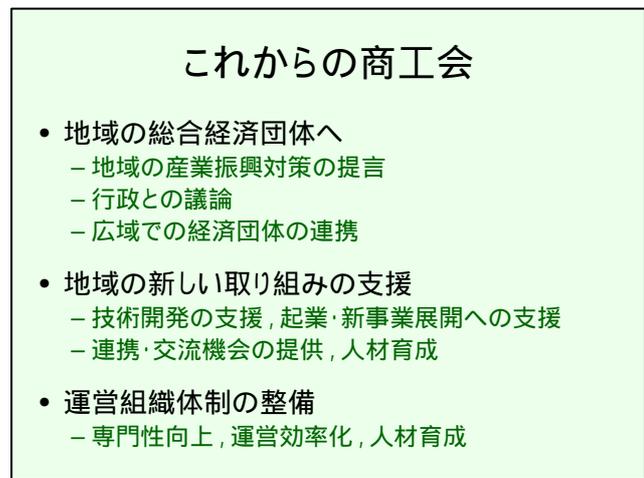
今後は、地域の「かかりつけ医」的な身近な相談・指導機能とともに、高度専門的な支援と広域的な産業振興事業の実施が求められている。

##### 安芸高田市全体をカバーする経済団体が必要

広域合併後の新市においては、従来の町行政時代よりも商工業振興への取り組みが強化されることが期待され、その際には、新市エリア全体としての産業振興対策の提言ができる体制が必要である。

##### 地域に根ざした総合的な産業振興組織が必要

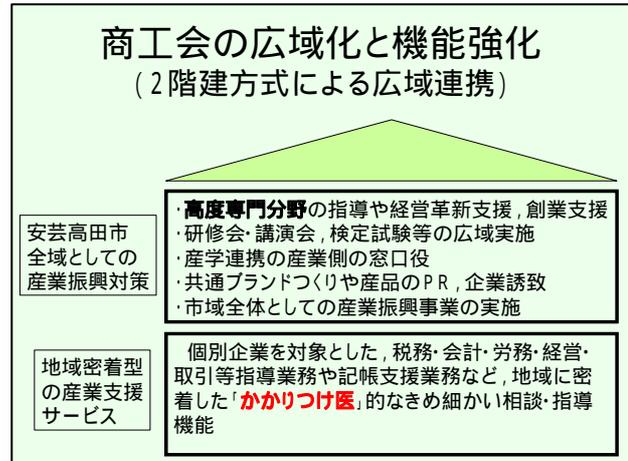
地域の産業振興は、商工業のみならず、観光、サービス業、農業に地域づくりを含めた総合的なものとして推進していく必要があり、地域に根ざした産業振興機能が求められる。



## 広域的な専門的サービスが必要

地域産業の支援には、技術開発などに専門的な支援が必要ではあるものの、その頻度や企業立地密度が低いために、十分なサービスが受け難い状況にある。また、地域の経営指導員も、技術開発等については十分対応できないのが実情である。

このため、経営指導員に持ち込まれた技術開発等の相談を専門的な助言やアドバイスのできる者に紹介し、必要に応じて大学や公設試験研究機関に紹介していくことのできる仕組みが必要である。



## (2) 具体化方策

### 商工会の合併

安芸高田市全域をカバーする体制整備のため、商工会の合併を行う必要がある。ただし、経営指導員には今後とも各地域の産業振興に重要な役割が期待されることから、現在の地域に根ざした相談体制を維持することにより、地域性の尊重と広域性、専門性、効率化の実現を図る。

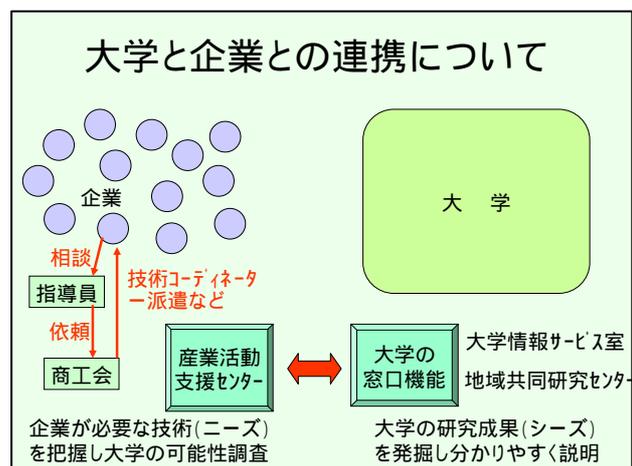
### 合併による商工会運営の効率化

今後、商工会の運営経費の確保には厳しい環境が想定されるため、商工会の運営事務を大胆に効率化していく必要がある。記帳支援事業についても、その広域的運用による効率化を進めていくほか、人員配置等についても職員の資質向上等のために広域的に柔軟に対応していく必要がある。

### 商工会と大学の連携

安芸高田市の企業が、技術開発等において専門的な支援サービスを身近なところで受けることができるためには、検討中の産業活動支援センターに技術コーディネーターを整備するなど企業の支援体制の活用が必要である。

地域の経営指導員が必要とする場合には気軽に産業活動支援センターの技術コーディネーターの派遣を依頼できる体制を整備することにより、地域の技術開発支援体制の強化が期待できる。



### 広域での事業

高度専門分野の指導や経営革新支援、創業支援、研修会・講演会、検定試験等の共同実施、相互支援、産学連携の産業側の窓口役、共通ブランドづくりや製品のPR、企業誘致など広域的な共同実施が効果的・効率的な機能については、安芸高田市全域を一体的に捉えて共同事業を進めていく必要がある。

## 2. 産業活動支援センターの設立

- 行政と産業界が連携した新たな産業支援組織の設立をめざす。

商工会が合併し広域的な支援体制が整備されたとしても、現在の商工会の役割と機能、業務体制だけでは、広域的な産業振興事業の実施には十分とは言えない。

商工会の会員企業だけを対象とした経営改善指導にとどまらず、安芸高田市全体としての産業振興対策の推進が求められており、上記の安芸高田市の産業振興戦略の1～7を迅速にかつ継続的に実施していくことが必要である。

そのためには、会員企業へのサービスの提供を中心とする商工会や、直接的な事業実施機能を持たない市行政だけの対応には限界があり、安芸高田市ならではの広域的な産業振興組織(以下、「産業活動支援センター」と仮称。)の設立が不可欠である。

### (1) 産業活動支援センターの必要性

#### 産業振興対策の迅速な整備

これまで農業中心であった町行政の産業振興対策から、新市に必要な産業振興対策を早急に実現していく必要がある。

#### 商工会活動の性格と限界

商工会は基本的にはその会員企業へのサービスの提供を使命とする組織であり、実態としてはこれまで商業系の事業所への経営改善指導サービスの提供が主であった。このため、長期的展望に立った安芸高田市の総合的な産業振興対策の実施主体となることについては、一定の限界がある。

#### 行政の直接活動の限界

安芸高田市行政は、これまでの各町行政においては農業振興が主であったために、商工業を中心とした産業振興対策についての経験の蓄積が乏しく、また具体的な事業の実施体制も整備されていない。また、安定性・継続性・公平性が求められる行政主体として、機動的・重点的な産業振興対策事業の実施については、一定の限界も考えられる。

#### 専門人材の育成と経験の蓄積

広域的・総合的な産業振興事業を継続的に実施していくことにより、組織としての経験の蓄積が図られその高度化を図っていく必要がある。

### (2) 行政，商工会との機能分担

#### 行政

- ・産業振興施策の企画立案
- ・法制度等の運用

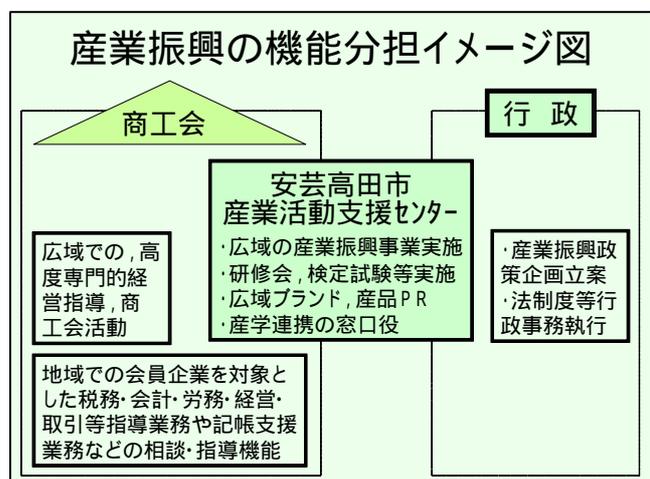
#### 機構

- ・産業振興事業の具体的実施
- ・進出企業も含めた地域内企業の総合的支援

- ・行政と産業界の連携役

#### 商工会

- ・会員企業の経営相談
- ・地域活性化の支援



### (3) 産業活動支援センターの業務

基本的には、戦略1から7までに掲げた内容の中から、産業活動支援センターで取り組むことが期待される事業について、それぞれ具体的な推進を行うことが期待される。

(再掲)

#### 1. 人がつながり人が育つ

(戦略1) 人の交流による新たな可能性の開拓

- 顔の見える人のネットワークによる新たな可能性の開拓

(戦略3) 人材育成による産業の高度化

- 継続教育の機会を提供し、可能性を伸ばし常に発展を続ける人材育成に注力

#### 2. 新たな挑戦を支援する産業支援環境の整備

(戦略2) 新たな挑戦を理解し応援する環境づくり

- 夢を追う企業活動を応援するためチャレンジを応援する産業支援環境を整備

(戦略4) 産業活動を支えるインフラ整備

- 空港・広島大学への東への交通やブロードバンド通信インフラの整備など

#### 3. 広域性と地域特性を生かした産業振興の推進

(戦略5) 広域的対応による新たな可能性の開拓

- 広域的な魅力を生かした新たな産業振興

(戦略6) 田園環境を生かした健康・環境・教育関連産業の振興

(1) 環境関連：豊かな自然を守る環境関連産業の振興

(2) 健康関連：癒しと健康をテーマとして人々を受け入れる地域づくり

(3) 教育関連：緑の中での集中教育とリラックス機会の提供

(戦略7) 交流人口、ネットワーク人口の拡大

定住人口、交流人口とともに地域の血縁・地縁の応援ネットワークを形成

### (4) 当面重点的に取り組むべき課題

当面、重点的に取り組むべき課題としては、次のようなことが考えられる。

「人」

人の交流の場づくり

- ・ 企業関係者等の交流の場づくりとグループ化
- ・ 人材育成
- ・ ビジネス塾の発展など人材育成研修の開催

「情報」

地域企業情報

- ・ 地域の企業のデータベースづくりとホームページ等での情報提供
- ・ 地域の企業の情報活用の支援
- ・ 国・県等の各種助成制度の情報の提供や、事業者の情報活用の支援

「連携」

企業間連携

- ・ 進出企業と地場企業による大学等の専門家を招いての共同勉強会
- ・ 業種を超えて、製造業、商業、農業、医療・福祉等の連携を模索する。
- ・ 市域外の企業と地域内企業との連携をあっ旋する。
- ・ 地域と企業の連携
- ・ インターンシップなどを通じての企業と地域との連携を促進する。
- ・ 産学官連携の推進
- ・ 企業のニーズと大学の技術シーズとのマッチング

## (5) 取り組みを検討すべき業務

上記を含め、次のような取り組みについて検討し具体化に向けて推進していくことが必要である。

### 情報収集・提供

- ・地域内企業の実態把握
- ・企業データベースの整備，管理，活用
- ・国・県等の振興策，助成金の情報収集と提供および活用

### 人材育成

- ・ビジネス塾など経営者の育成

### 技術・研究開発支援

- ・技術・製品開発・市場開拓等の相談・指導
- ・マーケティング～開発・製造・販売までトータルサポート

### 産学連携推進

- ・大学・研究機関・公設試験場等への紹介窓口

### 新規事業支援

- ・ベンチャー支援など新たな取り組みを支援する環境づくり
- ・企業の革新を促す土壌・雰囲気づくり
- ・ホームページ・ネットワークを使った共同受発注検索システムの開発・運用(次年度に向けた事業)
- ・市内企業への事業提案

### 交流サロンの主催

- ・企業グループの育成・活動支援
- ・展示会・研修会の開催(継続的な産業人材教育)
- ・新産業の創出・提案，コミュニティビジネス・エコビジネス・リサイクルなど

### 安芸高田市の産業に関する情報拠点

- ・人と情報の交流拠点

### 広域的産業振興対策

- ・振興策の模索
- ・安芸高田市ブランド，市特産品の開発・提案，産業特産物
- ・物だけでなく地域特性作り

### 総合的産業振興対策

- ・農林水産業，商工業，観光・サービス業，建設業などの一体的な取り組み

### 雇用対策

- ・雇用関連情報の収集・提供による雇用のミスマッチの解消のための取り組み

**(6) 産業活動支援センターの事務局体制**

産業活動支援センターは、当面必要最小限の体制でスタートし、業務の発展に応じてその体制を見直していくことが適当と考えられる。

具体的には、安芸高田市と商工会からの職員各1人程度と産業振興コーディネーター1人程度により構成することが考えられる。

**(7) 産業活動支援センターの運営体制**

産業活動支援センターの運営体制については、商工会と行政を中心として、幅広い産業関係者からなる運営体制を整備する必要がある。

また、「技術開発」「グループ化」「情報化」「人材」「ネットワーク化」など、必要に応じて部会なども設けて、具体的な事業の推進について協議する必要がある。

**(8) 産業活動支援センターの運営費**

産業活動支援センターの人件費及び活動経費については、他の先行事例も参考にしつつ、安芸高田市と商工会等が共同で負担することが考えられる。

**(9) 具体的な準備**

産業活動支援センターの設立については、行政と商工会関係者を中心として、その具体的な検討を行う必要がある。

なお、設立には、行政、各商工会のほか、各産業分野からの参加も期待される。

また、商工会の「広域センター」制度との連携やその活用についても検討をする必要がある。

「参考資料5 産業振興組織の先行例」参照。  
「参考資料10 地域産業開発事業の進め方に関して」参照。

## 産業振興対策検討のフレーム

### システム・制度(ソフト)

新たな挑戦の応援環境  
人材育成による産業の高度化  
広域的取り組み・ブランド化  
交流人口, ネットワーク人口

交流による可能性  
環境・健康・教育関連産業  
商工会の広域化  
産業活動支援センター

### 地域づくり

教育・セミナー施設  
住居インフラ

### 産業振興 技術開発

交通インフラ  
情報通信インフラ

### インフラ(ハード)

## 安芸高田市産業振興協議会等委員名簿

### 1. 安芸高田市産業振興協議会委員名簿

役名	氏名	所属等・役職
特別顧問	児玉 更太郎	安芸高田市長
会長	富永 秀雄	甲田町商工会長
副会長	清水 盤	安芸高田市 産業振興部長
コディネーター	橋本 康男	広島大学 地域連携センター 教授
委員	久保 慶子	安芸高田市 商工観光課長
	橋本 孝司	吉田町商工会長
	石神 博	八千代町商工会長
	平川 幸雄	美土里町商工会長
	熊高 一雄	高宮町商工会長
	西川 佚夫	向原町商工会長
	三宅 七生治	吉田町商工会 事務局長
	榎 幸男	吉田町商工会 経営指導員
	大原 博文	八千代町商工会 経営指導員
	竹本 隆文	甲田町商工会 事務局長
	香口 宏治	甲田町商工会 経営指導員
	正田 建二	向原町商工会 事務局長

### 2. 産業振興ビジョン策定委員会委員名簿

役名	氏名	所属等・役職
委員長	富永 秀雄	甲田町商工会長
副委員長	橋本 孝司	吉田町商工会長
コディネーター	橋本 康男	広島大学 地域連携センター 教授
委員	山本 公平	広島大学 地域連携センター 助教授
	白川 志保	広島大学 地域連携センター 助教授
	清水 盤	安芸高田市 産業振興部長
	久保 慶子	安芸高田市 商工観光課長
	兼村 恵	安芸高田市 商工観光課 係長
	倉岡 達志	広島県商工会連合会 振興部長
	原田 勇治	(有)原田時計店 社長
	堰楽 竜二	(有)堰楽工務店 社長
	金川 豊久	(有)金川モータース 代表
	世羅乃理代	世羅印刷(株)
	青原 芳一	青原木材(有) 社長
	溝本 郁夫	(株)神楽門前湯治村 社長
	太田 敏之	太田建築設計(有) 社長
	吉田 修	吉田新聞店 代表
	石神 博	八千代町商工会長
	平川 幸雄	美土里町商工会長
	熊高 一雄	高宮町商工会長
西川 佚夫	向原町商工会長	
三宅七生治	吉田町商工会 事務局長	

	榎 幸男	吉田町商工会 経営指導員
	日野 和明	吉田町商工会 経営指導員
	大原 博文	八千代町商工会 経営指導員
	村田 正人	美土里町商工会 経営指導員
	今屋えい子	高宮町商工会 経営指導員
	竹本 隆文	甲田町商工会 事務局長
	香口 宏治	甲田町商工会 経営指導員
	藤井 茂	向原町商工会 経営指導員

### 3. 産業振興機構設立検討委員会委員名簿

役名	氏名	所属等・役職
委員長	橋本 孝司	吉田町商工会長
副委員長	久保 慶子	安芸高田市 商工観光課長
学識委員	久保 元伸	広島大学 産学連携センター 教授
コーディネーター	橋本 康男	広島大学 地域連携センター 教授
委員	清水 盤	安芸高田市 産業振興部長
	兼村 恵	安芸高田市 商工観光課係長
	植田 恵治	産業振興コーディネーター
	倉岡 達志	広島県商工会連合会 振興部長
	上岡 誠三	(株)高山 社長
	井上 隆幸	(有)ヒノカワ自動車 社長
	植田 繁樹	(株)ミドリ 取締役工場長
	西村 明善	(株)西村製作所 社長
	新川 泰博	(有)新川工務店 専務
	市川 一彦	市川食料品店
	田中 房人	(有)田中物産 社長
	武内 正一	武内縫製 代表
	坂本 守夫	坂本重工(株) 専務
	久保 穂新	(株)啓文社製作所 総務部長
	西川 佚夫	向原町商工会長
	熊高 一雄	高宮町商工会長
	榎 幸男	吉田町商工会 経営指導員
	日野 和明	吉田町商工会 経営指導員
	大原 博文	八千代町商工会 経営指導員
	村田 正人	美土里町商工会 経営指導員
今屋えい子	高宮町商工会 経営指導員	
香口 宏治	甲田町商工会 経営指導員	
藤井 茂	向原町商工会 経営指導員	

## 協議状況

### 1. 安芸高田市産業振興協議会

- 平成16年 7月23日 第1回協議会（会場：安芸高田市役所）  
12月 1日 第2回協議会（会場：安芸高田市役所）  
平成17年 3月24日 第3回協議会（会場：安芸高田市役所）

### 2. 産業振興ビジョン策定委員会

- 平成16年 5月 6日 第1回事前協議（会場：甲田町商工会）  
5月17日 第2回事前協議（会場：甲田町商工会）  
5月20日 第3回事前協議（会場：甲田町商工会）  
6月 3日 第4回事前協議（会場：甲田町商工会）  
6月24日 第5回事前協議（会場：甲田町商工会）  
7月 8日 第6回事前協議（会場：甲田町商工会）  
事前協議は、商工会役員・経営指導員と広島大学地域連携センターにより実施。
- 7月12日 第1回策定委員会（会場：甲田町商工会）  
7月28日 第2回策定委員会（会場：甲田町商工会）  
9月 3日 第3回策定委員会（会場：甲田町商工会）  
10月12日 第4回策定委員会（会場：甲田町商工会）  
11月 8日 第5回策定委員会（会場：甲田町商工会）  
2月28日 東大阪市現地調査
- 平成17年 3月18日 第6回策定委員会（会場：甲田町商工会）

### 3. 産業振興機構設立検討委員会委員

- 平成16年 6月10日 第1回事前協議（会場：吉田町商工会）  
7月 8日 第2回事前協議（会場：吉田町商工会）  
事前協議は、商工会役員・経営指導員と広島大学地域連携センターにより実施。
- 8月 3日 第1回検討委員会（会場：吉田町商工会）  
10月22日 第2回検討委員会（会場：安芸高田市役所）  
11月24日 第3回検討委員会（会場：吉田町商工会）
- 平成17年 1月13日 第4回検討委員会（会場：吉田町商工会）  
1月25日 島根県斐川町現地調査  
2月 1日 岡山県津山市現地調査  
2月18日 第1回地元企業交流会（会場：吉田町商工会）

### 4. 安芸高田市産業振興ビジョン シンポジウム

- 平成17年 1月24日 安芸高田市産業振興協議会 主催

### 5. その他

- 平成16年 9月1日 広島県 主催，安芸高田市産業活性化推進会議

本報告書は広島大学との共同研究を元に関係者が協議を重ねてまとめました。